スタジアムから出るごみを減らすには
～ごみ資源分別ナビゲート～

持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク（SUSPON）

ごみゼロ部会

― 本資料は、環境再生保全機構地球環境基金（2021年度）の助成を受けて作成しました ―

ごみ資源の分別ナビゲート

分ければ資源、混ぜればごみ。

●誰かが捨てたごみをボランティアが拾う・代わりに分別してあげるのではなく、
ボランティアが来場者に分別方法を案内し、来場者自身に分別して自分で捨ててもらうための活動です。

・ごみがポイ捨て・置き去りされないようにする
・分別することで資源を取り出し、ごみを減らす

ごみ資源の分別ナビゲート

分ければ資源、混ぜればごみ。

●ボランティアがごみ箱に立つことで、ごみ箱から明るい雰囲気を発信。
来場者のマナーアップにもつながり、会場内のポイ捨てや置き去りが減ることが
期待されます。

● 様々な分別が混ざった状態で捨てると、「産業資源廃棄物」となります。
産業廃棄物の処理には費用もかかりますが、缶のみ・ペットボトルのみなど、資源はリサイクル
業者に買い取ってもらえることもあります。ごみ処理を安くすることも可能です。
また手元でしっかり分別することで、バックヤードで分別し直す手間を省くことができます。

スタジアムでの分別は、
チームが地域に貢献できる1つのツール。

●チームとして環境に対するメッセージを発信するだけでなく、
ファンが分別に参加することで、一緒に試合をつくり盛り上げることにもなる。

●チームとしてだけでなく、ファンの方々がクラブチームを通して
地域に貢献することもできる。
（地域の子どもたちと選手が一緒に街のごみ拾いをするなどの展開も検討できる）

●スタジアムのごみが減るだけではなく、地域のごみに対する意識啓発にもつながる。

やってみよう！

ステップ	考え方	具体的な取り組み事例
ステップ1	出ているごみを調査	どのような種類のごみが、どれくらいの量出ているのかを調査します。
ステップ2	ごみ箱の分別種類を見直す	ごみ箱の種類別の数や並び順が適切かを確認します。
ステップ3	ボランティアを募集し、実際にごみ・資源の分別ナビゲート活動を導入。	・ボランティアはファンから募る、または公募することも可能です。 ・初回は活動に知見のあるNPOがコーディネートを行い、徐々にチーム/スタジアムのみで運営できるようになると理想的です。 ・出るごみの内容や種類がどれくらい変わったか調査することで、活動の効果を測ることができます。

その他にも、ごみを減らすためにできること

①ごみがどこから出ているのか把握し、スタジアム内で販売されているものの販売形態を見直す。

例）プラスチックカップの提供を、リユースカップに切り替える、など

②スタジアムからでた資源を、会場内で使うものにリサイクル。

例）紙コップ→トイレットペーパー

③地域でリサイクルされていないものを、スタジアムで回収し、スポーツチームでリユース／リサイクルする。

例）・廃油
・不要になったスポーツチームの応援ユニフォームを途上国に贈る。
（途上国のチームとの交流の一環にも。）

＜参考＞東京2020大会 分別ナビゲーター活動

無観客開催となったことに伴い、実際の活動は実現しませんでしたが、
東京2020大会では、スタジアムにごみ資源分別ナビゲート活動の導入が予定されていました。

◀「持続可能性大会前報告書
持続可能性ハイライト」
（概要レポート）：P24より抜粋
https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/c39d868ed48b9b0b7eb70c21d0cba4c8.pdf